

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和3年度)

2022年 / 月 13日

株式会社MIRATZ MIRATZ本郷保育園 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

評価機関名 有限会社 エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	小規模保育事業A型		
調査対象事業所名称	株式会社MIRATZ MIRATZ本郷保育園		
事業所連絡先	郵便番号	113-0033	
	所在地	東京都文京区本郷4-9-7-103	
	電話番号	03-5615-9270	
契約日	2021年	4月	22日
利用者調査票配付日(実施日)	2021年	7月	31日
利用者調査結果報告日	2021年	10月	8日
自己評価の調査票配付日	2021年	7月	31日
自己評価結果報告日	2021年	10月	8日
訪問調査日	2021年	10月	13日
結果合議日	2021年	10月	27日
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2022年 / 月 13日

事業者代表者氏名 株式会社MIRATZ MIRATZ本郷保育園 園長 内田啓子 印



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>【法人理念】 1) 未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む 2) 心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む 3) みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子どもを育む</p> <p>【方針】 1) 都会の中ではあるが、意識的に自然に触れる機会を多く持つ。 2) 子どもの育つ力を信じ、見守りと援助をバランスよく行う。 3) 子どもの人権を守り、子どもの意思を尊重する。 4) 豊かな遊びを展開し、経験から学べる環境を整える。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家資格を持つ専門職として、必要な知識と技能を身に着け、学び続ける姿勢を持って欲しい。 ・社会情勢にも関心を持って、社会の中の子どもが置かれている状況を理解したうえで、保育士として必要な援助を行えるようになって欲しい。 ・人権感覚は揺らぎやすいものだという事を自覚して、自分の倫理観を絶えず問い続けて行って欲しい。 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>未来を生きていく子どもの育ちに大きく関わる仕事だという事を自覚し、子どもの育ちの援助、保護者や地域子育て支援を行って欲しい。</p>

調査対象

保育園に通っている園児18世帯19人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。

利用者総数

19

利用者家族総数(世帯)

18

共通評価項目による調査対象者数

18

共通評価項目による調査の有効回答者数

16

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

88.9

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」62.5%、「満足」37.5%の計100.0%であった。

自由意見では、「公園に行くと自然と触れ合う機会を作ったり、園内で工作や食育を行ったり、月齢に合わせて様々な取り組みを行って頂いていることに感謝しています。」「ICTの導入や新しい園行事の企画など、現状に留まらず、改善に積極的なところが良いと思います。」「コロナの中、いつも丁寧に対応して下さい、日々感謝しています。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が多く寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中15問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	16	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「安心して過ごせる環境で、色々な体験を通して喜怒哀楽を感じながら健やかに育っていると感じます」「身近なもので工作をしたり、食育活動することで、何かに興味をもつきっかけになっていると思います」という声が多く寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	16	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「活動がとても楽しそうです」という声が多く寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	2	0	0
「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は12.5%であった。 自由意見では、「完了食について、もう少し段階的に進められるとなお良いです」という意見が多く寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	1	1	0
<p>「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は6.3%、「いいえ」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「先生が通勤時に見つけた虫を捕まえてきて、皆で観察していたのが印象的で、有難いです」「園庭がない分、毎日しっかりお散歩でよく歩いて公園で遊ばせて下さっています」という声が寄せられていた。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	3	0	1
<p>「はい」の回答は75.0%、「どちらともいえない」の回答は18.8%、「無回答・非該当」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「連絡すると「気を付けて来て下さいね」と丁寧に対応をしてもらっています」「とても柔軟に対応してもらっています」という声が寄せられていた。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	14	2	0	0
<p>「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は12.5%であった。 自由意見では、「先生たちがしっかりと見守って、注意して下さい」と感じています」「避難訓練や不審者訓練、引き取り訓練も頻繁に行われていて設備も申し分ないです」という声が寄せられていた。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	1	0	1
<p>「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は6.3%、「無回答・非該当」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「コロナ禍で保護者会なども中止にせず、オンライン対応してくれて有難いです」「土曜開催、ZOOM 開催など、参加しやすいよう計画されています」という声が寄せられていた。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	1	0	0
<p>「はい」の回答は93.8%、「どちらともいえない」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「お迎えの時に一日の報告をして下さるので、その時に話しやすいと思います」「いつも相談しやすい雰囲気とても有難いです」という声が寄せられていた。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	1	1	0
<p>「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は6.3%、「いいえ」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「帰りに、掃除機や雑巾がけ、いすなどの拭き掃除をしているのを見て、本当に感謝しています」「日々、玩具を拭いたり掃除も丁寧です」という声が寄せられていた。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	14	2	0	0
<p>「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は12.5%であった。 自由意見では、「申し分なしです。統一感や清潔感があります」という声が寄せられていた。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	15	1	0	0
「はい」の回答は93.8%、「どちらともいえない」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「風邪の状態を報告して下さり、また看護師さんも優しく保育に参加して下さっていて安心です」「親が気付いていなかったケガなどもしっかり見てくれている」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	15	1	0	0
「はい」の回答は93.8%、「どちらともいえない」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「優しく、でもしっかりと注意してくれていると思います」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	15	1	0	0
「はい」の回答は93.8%、「どちらともいえない」の回答は6.3%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	14	2	0	0
「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は12.5%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	14	1	1	0
「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は6.3%、「いいえ」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「アプリにも丁寧に書いて頂いて有難うございます」「保護者会でしっかり説明されています」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	14	1	0	1
「はい」の回答は87.5%、「どちらともいえない」の回答は6.3%、「無回答・非該当」の回答は6.3%であった。 自由意見では、「個々の要望を聞きためて、運営委員やアンケートで議論した上で、出来る範囲で取り込んでいくという方法がとられておりとても良いです」という声が寄せられていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	2	2	2
「はい」の回答は62.5%、「どちらともいえない」の回答は12.5%、「いいえ」の回答は12.5%、「無回答・非該当」の回答は12.5%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評点(〇〇〇〇)	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ-1の講評			
<p>利用希望者や来園者に向けた幅広い情報発信が行われている</p> <p>入園または見学を希望する保護者は、ホームページ、地域向けのポスター、区役所から、園の情報を入手できる。来園者や見学者には、パンフレット「本郷園へようこそ」を配布している。地域へ向けは、近隣の養成校や高校にインターンシップのポスターを置かせてもらったり、送付したりしている。また、近隣の商店や図書館、児童館、外掲示板にポスターを掲示している。子育ての不安を抱えている地域の保護者の方に育児相談の案内をホームページやポスター掲示で発信している。</p> <p>提供する情報は保護者が必要と思う内容が簡潔に表現されている</p> <p>保護者の特性を考慮し、提供する情報の発信手段と多様性のあるニーズに応えるために、オンラインでの情報発信も行っている。言葉の理解が難しい保護者には、翻訳ソフトを使った対応を行っている。写真による保育園の紹介やQRコード付きのパンフレットやポスターの発行を積極的に行うなど、園の情報を簡単に見てもらい配慮が感じられる。写真には活動のねらいなども記載して、活動の意味がわかるようにしている。</p> <p>見学者へ、園で取り組んでいる生活の様子について伝えている</p> <p>見学の問い合わせについては、希望日時を確認し園の状況も考慮したうえで、日程調整をして受け入れている。見学は基本的に午前中に実施しているが、できる限り希望日時に沿って受け入れている。保育園体験は見学希望者にも実施していることを伝えており、期間は特に設定されていない。見学者には行事の参加も可能であることを伝え、後で連絡をした方が良いかを尋ね、希望で連絡を入れている。園内を案内しながら子どもの活動の様子も見てもらい、保育目標についてどのような活動や支援から目標につながるかを具体的に伝え小規模園の特徴を伝えている。</p>			

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面接や入園説明会を実施し保育園のしおりに沿って説明をしている</p> <p>サービスの開始にあたり、基本的ルールなどを保護者の状況に応じて説明するために、入園面接を実施している。内定後に提出書類、入園までの生活状況、健康記録、緊急連絡カードなどを配布し、書類の記入を依頼している。面接は園長や看護師、保育士が担当し、児童票や家庭での子どもの状況、保育時間などを確認し入園後のルール、持ち物などの説明をしている。入園面接で確認された事項は児童票に追記している。入園説明会では「入園のしおり」に沿って、園の方針やルール、写真の取り扱いなどについて説明している。</p> <p>徐々に保育園に慣れていけるような時間の調整や環境の配慮をしている</p> <p>保護者には園での子どもの様子が伝わるように、一人一人に声をかけ、家庭での生活リズムなどをもとに無理なく園に慣れていけるように配慮している。入園直後の子どもの不安やストレスが軽減されるように、園としては徐々に時間を延ばしていく慣れ保育の日程表を3パターン程度作成し、基本5日から9日間のパターンで提案している。また、個人の所有物の持ち込みは基本受け入れていないが、入眠時に必要なタオルやガーゼなどの受け入れは行っている。</p> <p>サービスの終了時に思い出に残る写真や絵画などの贈呈を行っている</p> <p>サービスの終了時に、子どもや保護者の不安を軽減し、継続性に配慮した支援を行うために、寄せ書きに子どもの写真やクラスや園の集合写真も添えて渡している。また、その年の絵画や作品を綴って渡している。インスタグラムにも絵本や玩具、家庭でも行える遊びの解説を紹介しており、退園してもその年度は見れる形にしている。返却する書類として、保険証のコピーや個人名のゴム印など渡している。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	
サブカテゴリー3の講評		
<p> 全体的な計画をもとに子どもの状況に合わせた年間指導計画を作成している 子どもの状況に応じた指導計画を作成するために、園独自の全体的な計画の各領域をもとに、年齢や発達状況に合わせた年間指導計画を作成している。具体的な保育活動については月案や週日案の中で表現されている。日ごとに心身の状況について記録を取り、全職員が共有している。把握した家庭での様子は記録に残し次月に反映している。指導計画のマニュアルには、見直しは明記されていないが、緊急な見直しは必要に応じて行っている。特に監査で指摘があった場合や保育指針が改訂されたことを想定している。 </p> <p> 保護者と子育ての観点から、保育のねらいを伝えるしくみづくりの検討に期待したい 0～2歳児は、毎月一人一人の状態に応じて、個別月指導計画を作成しており、保護者と登降園時の会話や、連絡帳、年1回の個人面談の中で伝え、子育ての共有を図っている。個別月指導計画には、子どもの姿や活動内容、保育者援助、配慮が記載されている。今後さらに、保護者と子育ての共通観点が図られ子育てにつながるために、毎月の子どもの姿から月の保育のねらいを明確にし、保護者に書面でわかりやすく伝えてほしい。保護者の方が一緒に考えるきっかけになり、保護者からコメントを頂くなどのしくみに繋げてほしい。 </p> <p> 保育の記録や共有は全職員で適切に行われている 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する全職員が共有し活用するために、複写式の連絡帳を保管している。計画の内容や個人の記録の支援を担当する全職員が共有し活用するために、計画はクラスごとに作成し、全職員が参加する職員会議で説明して情報を共有している。子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を共有するために、書庫前に紐でかけてある連絡ノートを出勤して保育に入る前に必ず目を通すこととしている。会議録は決まった場所においてある。議事録は全員の確認印を押し、全員確認が終わり次第書庫に保管している。 </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>日ごろからプライバシーの保護や子どもの羞恥心への配慮に努めている</p> <p>子どもに関する情報を外部とやりとりする必要がある場合に、保護者の同意を得るための取組として、個人情報に関する利用目的や取扱いについて入園面接時に説明し同意を得ている。羞恥心に配慮した支援を行うために、トイレは大勢で行かないようにしている。着替えは室内で行い、全裸にならない着替え方(脱ぎ着の順番)を全職員で確認し子どもへ伝えている。おむつやパンツは室内では脱がない、衝立を活用するなどプライベートゾーンを決めて行っている。身体測定の際にはシャツを着たまま行っている。</p> <p>子どもの一人一人の個性を考慮し、最善の利益を常に心に留めた保育が行われている</p> <p>一人一人の子どもの幸せ、最善の利益を念頭に置き、子どもの伸びようとする力を信じて育てる保育の実現を目指しており、0歳児は子ども6名に対して担任3名を配置している。例えば午前に眠くなる子どもに対しては、入園から1か月程度は個々の睡眠時間で眠れるようにした。家庭での食事の進みを見ながら食事形態も対応している。虐待防止や育児困難家庭への支援に向けた、職員の勉強会や研修会は行われていないが、児童虐待防止対策に関する関係団体とのネットワークに参画するなど情報収集に努めてほしい。</p>			

サブカテゴリ-6

6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		

サブカテゴリ-6の講評

園の手順書がつくられ、保育に活かされている

園の事情に応じた各種手順書も作成されている。手順書は日常の保育全般にわたり活用され一定の水準のサービスを提供している。また、時期を定めた改訂や適宜行われる見直しなどにより、必要な変更を盛り込んでいる。基本的な生活習慣の援助方法については、まとめて文章にしている。保育目標や保育方針の内容を文章にしている。園のさまざまな手順がいつでも確認できるように、必要な部分はコピーをとり、いつでも取り出して活用している。

提供しているサービスを保護者の意向やガイドラインを参考に入れ定期的に見直している

年間計画や各保育計画の振り返りを行い、反省点や改善点を話し合い、課題を抽出すると共に、各行事係などがそれぞれ担当分野のサービスの向上を行うための改善事項を盛り込んでいる。また、運営委員会や保護者アンケートなどを実施すると共に、登降園時の声かけなどから受け取った保護者の意向をとりいれ、行事計画などに活かしている。公的機関から出ているガイドラインに沿って、より良いサービスが提供できるようにマニュアルや手順書の見直しを行っている。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>日々の子どもの様子を観察し、子ども一人一人の全体的な姿を把握している</p> <p>発達の過程や生活環境などにより、子ども一人一人の全体的な姿を把握するために、日々の子どもの様子を観察し、児童票の発達及び経過記録に記載している。連絡帳は複写式になっているため、個人の記録として残している。子どもの様子は月1回の職員会議で共有し、保育に活かしている。保育者は0歳児クラスから行動に必ず言葉を添えており、ミルクやオムツ替えの際には「何々するよ」と子どもの気持ちをそちらに向けてから行うことで、子どもが主体的にその行動を行えるように支援している。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、保護者や専門機関との連携を図っている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもの保育にあたっては、子どもの特性や集団での様子を知るために、例えば療育機関などに通っていただければ保護者の了解を得て実際の療育現場に出向くなどの対応をしている。子どもへの対応や配慮について見学することで成功事例などを確認し、見学後は専門的なアドバイスをもらうなどして支援計画作成の参考としている。確認した内容をもとに職員間で情報共有して統一した対応につなげ、園全体で子どもの育ちを援助している。</p> <p>子どもの年齢や発達を考慮し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている</p> <p>乳児期は自分の感情を言葉に出せない気持ちから「噛む」こともあれば「目の前にあったから噛む」など、「噛む」行動が少なからずあることを入園のしおりでも触れており、保護者に対する啓蒙活動をしている。そのため「噛んだ子ども」「噛まれた子ども」双方の保護者に相手の名前は出さずに起こった事実を伝えている。噛んだ子どもを強く否定することはせずに、してしまった理由について子どもの気持ちに共感し、された子どもには痛かった気持ちを共有している。職員が行うセルフチェックリストにも項目があり、職員自己評価も行っている。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	

評価項目2の講評

登園時には、子どもの視診を行い家庭での様子について保護者に確認している

登園時は保護者と明るく挨拶を交わし、その返答具合から朝の家庭での様子を推察し、変化が見られる場合は確認をしている。朝の支度時に行っている体温計測中の親子の様子も観察し、保護者から申告があった内容に加えて、感じ取られた様子も登降園簿に記入している。必ず視診を行い体調・心情・外傷など見かけ上の異変についてキャッチできるように努めている。登降園簿に書かれた内容と連絡帳の内容はクラスで共有し、内容によっては栄養士や看護師、園長、主任などにも申し送っている。

基本的な生活習慣の獲得及び生活リズムの確立に向けて、保護者と協働して進めている

基本的な生活習慣の獲得に向けた取組は、家庭と足並みを揃えて協働して行っている。食事の際には、正しい姿勢で足が床に着くように脚台やクッションを使っている。排泄はトイレトレーニングについての書面を保護者に配布し、適切な時期に適切な方法で園と家庭とで同じ方法で行えるように取り組んでいる。休息の長さや時間帯は子どもの状況に配慮しており、特に0歳児は、入園後しばらくは家庭での睡眠やミルクの時間を確認しながら生活リズムを組み立てている。徐々に生活リズムを確立し、他児と一緒に過ごせる時間が増えるように配慮している。

降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人一人に直接伝えている

降園時には、担任が対応する際にも必ず登降園簿の確認を行い保護者とのやり取りを行っている。担任以外が対応する際には、担任から担当職員に登降園簿に記入の上、口頭でも引継ぎをしている。連絡帳には、成長の様子が伝わるエピソードなどを記載し、より伝わりやすいように写真を添えることもしている。また、降園時に保護者が見られるように写真を使ったドキュメンテーションを掲示し、園での子どもの様子を伝えている。園のFacebookでは、子どもたちが取り組んでいる行事や食育活動の様子などについて写真にコメントを添えて発信している。

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している 評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している
評価項目3の講評	
<p>子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている</p> <p>子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮として、玩具は子ども自らが遊びたいものを選び、取り出せる環境に置いている。また、子どもの興味・関心、発達に応じて職員間で話し合い、玩具の入れ替えを行っている。保育室は、子どものやりたい遊びや興味・関心を確認し、限られたスペースを工夫しながら遊びのゾーンを設定している。各クラスには、ベンチを配置し、絵本を読んだり、疲れたら座ったり寝そべったりできるように配慮している。</p> <p>午前中は積極的に散歩にでかけ、ねらいをもって戸外活動を楽しんでいる</p> <p>午前中は積極的に散歩にでかけ、戸外活動を行っている。行き先や経験させたいこと、活動内容によりねらいをもち、五感を使って季節を感じたり、自然物や生き物を観察したりしている。例えば、冬の公園で凍った池の氷を割って触ったり霜柱を見つけて踏んだり細長い氷を取り出したりして遊んでいる。子どもたちは、氷を触って手が冷たくなることを感じ、息を吹きかけて手を温める動作が自然と身についている姿がみられている。池の中にカエルの卵を見つけて観察するなど、命の誕生や季節の移り変わりを感じて楽しんでいる。</p> <p>制作や運動遊びなどを通じて表現する楽しさや喜びを感じられるよう取り組んでいる</p> <p>子どもが様々な表現を楽しめるように、例えば雨が降る様子を観察しながら「ぼったんぼったん」と体を動かしたり、絵を描いたりして楽しむなど、子ども自らが感じたことを様々な角度から表現し、発想力や創造力を育てている。小麦粉粘土遊びでは粘土の感触や、形の変化を楽しんだり、自分が作りたいものをイメージして作ったりして楽しんでいる。運動遊びでは、音楽に合わせて体を動かしたり、トンネルやマットを使ったりしている。様々な制作や運動遊びなどを通じて表現する楽しさや喜びを感じられるよう取り組んでいる。</p>	

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p>行事の実施にあたり、子どもが興味や関心をもって取り組めるよう工夫している</p> <p>行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるように例えば日本の伝統的な行事は、絵本やパネルシアターなどを活用し、乳児にも分かりやすく伝えて取り組んでいる。行事にまつわる物を各年齢に応じた方法で一緒に準備しながら日本の伝統文化が経験できるように取り組んでいる。行事で使用する物も子どもと一緒に準備をしたり、七夕では保護者と一緒に飾りつけをしたり、みんなで作る行事を意識して実施している。</p> <p>年間行事予定を配布し、見通しを持って参加の予定を立てられるようにしている</p> <p>0～2歳児の当園は、まずは子ども一人一人が好きなことに主体的に取り組む事を大切にしている。一人一人が十分にあそび込むことで物事への興味・関心が増し、それを同じくする子どもの中で「一緒に楽しい」と感じる心を育てている。保護者には、年度当初に年間行事予定を配布し、保護者参加の行事について見通しをもって参加できるよう配慮している。「成長を祝う会」では、「日々の生活の中で身につけたことや成長によりできるようになったことを見てもらい機会」であることを伝え、お遊戯会のようなものではないことを理解してもらい実施している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている

保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう、例えば0歳児は夕寝をする子どもが多いため18時過ぎに合同保育に加わっている。1・2歳児についてもクラスの人数が半分以下になってから合同保育を行っており、できる限り環境の変化を少なくして日中と同じ環境で過ごせるように配慮している。職員体制についても特に0歳児クラスの保護者の就労スタイルを見極めながら18時過ぎに降園する子どもが多い場合には、担任1名を遅番専任の保育者とするなど人的環境にも配慮して体制を整えている。

保育形態の変化がある場合でも子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている

保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが寂しい気持ちにならないよう一人一人に寄り添い、子どもの要望をききながら少人数でしか遊べない積み木や玩具を使い、ゆったりと遊べる環境を作っている。延長保育は月極めとスポットで利用体系を選択できるしくみとなっている。保護者の急な残業などでスポット利用する子どもが寂しい気持ちにならず、延長保育時間に特別感を感じ、安全で楽しく過ごせるような環境づくりに努めている。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	

評価項目6の講評

子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している

食事は、「完食」を目指すのではなく、乳児期には「食べる楽しさ、嬉しさ」を感じてもらえるように配慮している。自分の食べられる量を伝えられる子どもには「減らす」申告を受け付け、対応している。子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるよう0・1歳児は担当制をとっており、いつも同じ保育者が介助についている。食事中に保育者が動きまわると子どもが落ち着かないため、ティッシュや雑巾、ゴミ袋など必要なものは全て近くに準備している。また、子どもの発達に合わせて椅子や机の高さを調整し、正しい姿勢で座れるように援助している。

メニューや味付けなどに工夫を凝らし、食物アレルギーへの対応も行っている

乳児期は食材に「慣れる」ことが重要と捉え、食材を必要以上に広げず、2週間ごとの「サイクル給食」にしている。1度目は進みが悪くても2度目は食べることが子どもによく見られることや調理職員も1度目の喫食状況をみて、大きさ・硬さ・形状を改善できるという利点を生かしている。行事食は行事にちなんだ食材や子どもたちが楽しくなるような見た目も大切にしている。食物アレルギーに関しては、生活管理指導表の提出のもと、基本的には除去食で対応している。除去食品がタンパク質の場合は、栄養面を考えて代替え食での対応も準備している。

子どもの食への興味・関心、季節感等を考慮し、食育活動に積極的に取り組んでいる

子どもの食への興味・関心、季節感等を考慮し、食育のテーマ、期ごとのねらいに沿った「食育年間計画」を立案している。特に実際の食材に触れることを積極的に行っており、例えばしいたけの栽培では原木の水やりから行い生長の様子を観察し、実際ライブクッキング形式で食べるところまで行っている。食材に触れ、香りを嗅ぎ、調理の音を聴き、変化していく様子を見て、楽しみに待ち、実際に食べることで五感を使い、心を動かす活動を積極的に取り入れ、子どもたちの食への興味・関心を広げ、食べる意欲へとつなげている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p>子どもが自らの健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防できるように援助している</p> <p>子どものけがの予防に関しては、0歳児からふれあい遊びやわらべ歌遊びを行い、心も身体も柔軟になるように努めている。また、各年齢に合わせた戸外活動を行い、1歳児は日々の散歩を近い距離からはじめて、徐々に距離を延ばして歩行を完成させている。2歳児は、戸外遊びに加え、室内でタオルを使って遊具だけでは経験できない身体の動きを使いながら遊ぶことで身体の使い方を知ることにつなげている。健康維持に関しては、歯磨き指導や、鼻水処理の方法をわかりやすく伝え、子どもが自身の健康に興味をもてるような活動に取り組んでいる。</p> <p>子ども一人一人の健康維持に向けて、保護者と連携を図って取り組んでいる</p> <p>毎月「ほけんだより」を発行し、その時期に流行る感染症や気を付けることなどの発信を行っている。乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のために園では仰向け寝を行い、午睡チェック表をもとに確認をしている。入園面接時に乳幼児突然死症候群(SIDS)のリスクについて保護者に知らせ、仰向け寝に慣らしてもらうように啓蒙活動をしている。また、感染症に罹患してから登園までの目安も入園面接時に配布し、協力を仰いでいる。子どもの体調については体温だけでなく生活や遊びの様子、食欲、排泄状況などからも確認し、保護者と連携を図っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p>保護者の個々の事情に配慮し、保護者との信頼関係が深まるよう取り組んでいる</p> <p>保護者の子育てや就労等の事情に配慮するために、例えば育児休暇中は9時～16時の保育時間だが、産後の体調変化や疲れなどから保育時間の延長など柔軟に対応している。保護者と職員の信頼関係が深まるような取組として、登降園時には保護者とのコミュニケーションを大切にしている。また、個人面談は期間を設けているが、それ以外でも申請があれば担任・園長・主任・看護師・栄養士の誰とでも面談できるようにしており、利用者調査のコメントからも「声をかけやすい」「相談しやすい雰囲気です」などと寄せられ保護者との良好な関係が窺える。</p> <p>保護者同士の交流を深めるための取組を工夫して行っている</p> <p>保護者同士が交流する機会として、クラス懇談会は年に2回企画しており、コロナ禍で休園になった昨年度は自粛期間明け後1か月弱で日程調整をし、オンラインで開催している。感染症予防対策として中止になる園も多いなか工夫して実施しており、保護者からは自粛期間で他者との交流がもてなくなった中で、みんなの顔をみながら話ができたと好評を得ている。保護者会は、各年齢に応じた保育の目標や保育内容を園から伝えることと保護者の交流を図ることを目的に行っており、保護者に伝わりやすい表現方法を使った資料の作成などに配慮している。</p> <p>子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取組を行っている</p> <p>子どもの発達や育児などについて、保護者に発信する手段として園だよりや保健だより、給食だよりをそれぞれの目的別に作成して保護者に配布している。園だよりでは、各年齢の毎月の目標や子どもの姿を記載して保護者と園で共通認識がもてるように工夫している。また、保育の内容を園のFacebookにて発信し、写真と共にねらいも明記して認識の共通化を図っている。また、子どもの誕生日に「誕生日保育参加」を行っており、子どもの様子とともに他児との関わり、保育者が子どもと関わっている様子を見てもらう機会を作っている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を設けている</p> <p>地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会として、例えば2歳児は、給食の食材を納品してもらっている近隣の八百屋へ栄養士と一緒に買い物に行き、お店の方と交流をし、買い物体験をしている。また、図書館に行き子どもたちが自分で好きな本を選び、借りる体験をしている。近隣の公立保育園とは開園当初に挨拶に出向き、週1回園庭や保育室、ホールを使わせてもらったり、子どもとの交流を行ったりしていた。現在はコロナ禍により交流活動に制限があるため交流方法などを検討している。</p> <p>コロナ禍でもあきらめずに工夫して高齢者施設との交流を行っている</p> <p>お月見会やクリスマス会などの園のイベントでは、地域の子育て家庭の参加希望を募っている。当園は小規模ながら園への見学者が多く、様々な媒体を使い保育内容をPRし、感染予防対策を講じて行事や体験で園内に入ってもらう機会を積極的に作っている。高齢者施設との交流については訪問することが困難であったため、子どもたちの歌っている様子などを収めたDVDを作成して届けており、工夫がみられている。高齢者施設からはそのDVDを見ている様子を写真に撮って園に返信してくれており、コロナ禍でもあきらめずに交流を行っている。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇●●)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
未実施	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
未実施	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評			
<p>苦情解決制度の周知や利用者(保護者)の意向の把握に努めている</p> <p>苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を利用できることに関しては、保育内容に関する苦情・相談窓口として玄関に掲示し、入園のしおりで保護者に周知している。また、クリアファイルに入れた要望書を玄関スペースに置き保護者がいつでも自由に取れるようにしている。要望に対しても内容と結果を保護者に報告している。苦情があった際は可能な限り迅速に対応することとし、考えられる相談先(本社、自治体、担当者)と連携して解決にあたっている。</p> <p>様々なリスクに対応するヒヤリハットや事故報告書などによる再発防止も進められている</p> <p>当園のリスク対策に関する考えは、その時の情勢によって変化するものと捉え、現在は新型コロナ感染予防を最優先とし、大津の事故の際は散歩経路の安全確認を最優先とした。その時々情報を集めて可能な限りの対応をとっている。リスクマネジメントの仕組みを構築する目的として、組織内のリスクを適正、円滑に管理し、リスクの発現によって被る被害を最小限にすることです。組織によって何をリスクと認識するか、組織にとってリスクを可能な限り洗い出すが、第一歩となるためより一層リスクの洗い出しに取り組んでほしい。</p> <p>人権擁護のセルフチェックリストを行い、職員自身の人権感覚を見直す機会を設けている</p> <p>子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、人権擁護の為にセルフチェックリストにて、職員自身の人権感覚を見直す機会を定期的に設けている。虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には区子ども家庭支援センターと連携を図って対応する体制が整えられている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	コロナ禍で行事が中止になることが多い中、当園はスピード感をもって対応している	
内容①	<p>昨年度は、コロナ禍による登園自粛要請や行事の規模縮小など、予想していなかった体験をしている。そんな中でも自粛期間明け後1か月弱で日程調整をし、オンラインで懇談会を開催している。他園では様々な行事が中止になることが多い中、当園はスピード感をもって対応し、工夫をして取り組んでいる。保護者からも自粛期間で他者との交流がもてなくなった中で、保護者同士で交流がもてたことについて好評を得ている。園のFacebookでの保育活動の発信や保育ソフトを使った連絡帳などICT化を進め、保護者支援に力を入れて取り組んでいる。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもに対する言葉遣いや援助の仕方など、主体的な保育に反映した活動となるように意識を高めている
	内容	当園では「子どもの最善の利益」を保障する、適切な言葉遣いや振る舞いなどを周知している。人権擁護のためのセルフチェックリストを用いて、全国保育士倫理綱領に示される適正な行動や言葉遣いを行っているか自己点検を行っている。自己点検は全職員が実施し、職員面談でも各職員の現状と評価結果の確認を行っている。さらに、園内研修でとりあげ、人的環境として、職員が理解を深めると同時に、実践している。保育の現場では、園長の直接指導も行って、気づきが得られるようにしている。
2	タイトル	栽培活動やライブクッキングなどの食育活動を取り入れ、子どもたちが楽しみながら五感を育む活動を積極的に取り入れている
	内容	人生の基礎となる乳児期を大切に捉え、晴天の日は存分に戸外遊びを楽しみ、0～2歳児という低年齢であっても、みんなで栽培活動やライブクッキングなどの食育活動を取り入れ、子どもたちが楽しみながら五感を育む活動を積極的に取り入れている。食事の時間が楽しみになるようなメニューの工夫や様々な食べ物に親しみ、食材が作られる様子を観察し、食材から料理ができあがる様子を体験する経験を積み重ねることで、子どもたちの食への興味・関心を広げ、楽しく食べる意欲を育てている。
3	タイトル	0・1歳児は担当制保育を行い、特定の保育者が関わることで子どもとの愛着関係を結び、子どもの小さな変化や成長を見守っている
	内容	0・1歳児は担当制保育を行い、特定の保育者が食事・排せつ・着替えなどの生活面に関わることで子どもとの愛着関係を結び、一人一人の心の安定とそれぞれのペースに合わせた発達援助を行っている。小規模園の強みを活かし、子ども一人一人に寄り添い、常に「子どもの最善の利益」を考え、目先の事ではなく長い目で子どもの育ちを考えていくということを、保育実践も交えて保護者にも発信している。利用者調査からも総合満足度100%の評価を得ており、職員の対応の良さや感謝の声が多く寄せられている。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	自園の長所を生かした第二保育園との連携・協働、防災意識の啓発・地域のつながり創出による、有効なBCPの策定に期待したい
	内容	大きな自然災害が日常生活に多大な影響を与える事例が数多い昨今、BCPは非常に重要な課題になっている。その課題に対して当園として連携園との協働的な計画を考えていけると更に有効なBCPとなるのではないだろうか。現状でもすでに他園の事例などの情報を収集して準備を進めている。関係者、関係機関の指導、助言を受けながら、実効性の高い計画の作成を進められることを期待している。当園の特長を生かした連携園とは、子どもと地域の人々の安全があるため、保育という共通した目的の施設と地域連携によるBCPの策定に期待したい。
2	タイトル	子どもの個人別指導計画に関するさらなる積極的な取り組みの推進に期待したい
	内容	子どもの主体性を育む環境を整え、一人一人の興味や意欲を大切に育む保育が行われている。また、保護者とのコミュニケーションを深めるなかで保護者の意向や子どもの様子を把握し、園での姿を伝えながら個々に合わせた対応が行われている。一方、保護者との共有での観点からみると、計画的な要素に関して保護者のコメントも含めた書式でのやりとりが望まれる。
3	タイトル	0～2歳児までの園として感染症予防対策を講じたうえでの幼児クラスへの進級を見据えた交流の取組など、より一層の検討に期待したい
	内容	近隣の商店での買い物体験や地域の子育て支援事業、区立保育園・高齢者施設との交流など、「心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む」法人理念のもと、地域資源を活用して子どもたちに多様な体験や経験ができる機会を設けている。コロナ禍の中、高齢者施設との交流はDVDと写真のやり取りを行い工夫して交流している。コロナ禍により他園との交流が思うようにできない中、0～2歳児までの園として感染症予防対策を講じたうえでの幼児クラスへの進級を見据えた交流の取組など、より一層の検討に期待したい。